

委託事業実施内容報告書

平成24年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【地域日本語教育実践プログラム(A)】

託団体名 特定非営利活動法人 多言語教育研究所

1. 事業名称

「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

2. 事業の目的

外国人の子どもの日本語コミュニケーション能力と自尊心を高め、学校生活における自立的な適応力を向上させること。また、特に将来の進路について、親と子どもの生活者としての選択肢とそれに関わる日本語能力を得ること。

3. 事業内容の概要

保護者も参加可能で、子どもの母国語・母国の文化を知ることを通して多文化な視点の支援も行う日本語教室の設置と運営。

受講者を母国語のできる教員と日本語のできる教員により指導する。母国語のできる教員は日本語の勉強を助けるだけでなく、母国の文化やアイデンティティに誇りを持つように生徒を促し、親子のきずなとコミュニケーション作りを支援する。

4. 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
9月10日 18:00～ 20:00	法人内	秋元 ヴィニ シウス 光 天田 麻里 佐藤 真人 村元 エリカ 中村 マイケ ル	外国人児童生徒 のニーズに基づ いた日本語教育 について	言語あるいは文化的背景が原因で日本語習得能力が異なるケースが多い。これらの問題を日本語教育者の事例を基に意見交換を行う。

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
3月18日 18:00～ 20:00	法人内	秋元 ヴィニ シウス 光 天田 麻里 佐藤 真人 村元 エリカ 中村 マイケ ル	日本において、外国人が生活者、社会の一員として果たせる役割とは	文化的背景が原因で日本での日常生活で問題を抱えている在日外国人が多いため、各学校で行った日本語教育（ドリームクラブ）を基に、これからの課題に対してどのように活用すればよいのか。

5. 日本語教室の設置・運営

(1) 講座名称 親子の夢実現教室「The Dream Club」

(2) 目的・目標

- ・子どもが自分たちの深く知っている話題について、日本語を自由に話し使うことのできる環境を提供する。
- ・日本人のクラスメートの中で少数派である子ども達の文化などを知る機会を提供する。
- ・親達の文化や言語に対する自尊心と誇りを育てる。
- ・親としての影響力や親子のつながりを深めることで、子どもの学校生活での問題の解決を親が助けることができるようにする。

(3) 対象者

(4) 開催時間数(回数) 78 時間 (全 43 回)

(5) 使用した教材・リソース:

紙芝居、クラフト教材、ビンゴゲーム、写真(画像)、(添付ファイルの通り)。

(6) 受講者の総数 41 人

(出身・国籍別内訳 ポルトガル語 22人 (ブラジル国籍)、スペイン語 10人 (ペルー国籍 8人、パラグアイ国籍 1人、ボリビア国籍 1人)、日本語 7人 (ブラジル国籍 2人、日本国籍 5人)、英語 2人 (フィリピン国籍 2人))

(7) 受講者の募集方法:

各言語でチラシを作成し、(日本語、ポルトガル語、スペイン語) 各学校に配布した。また、法人内で実施したドリームクラブに関しては ICS に在籍している生徒及び地域の子供たちを対象に呼びかけ活動を実施した。

(8) 日本語教室の具体的内容

① 日本語教室の具体的内容

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語(人)	教授者・補助者人数	内容
①	9月8日 10:00~12:00 13:00~16:00 法人内	6時間	8人	ポルトガル語・日本語・英語・スペイン語	4人	最初に教員、生徒それぞれ母国語、日本語で自己紹介をした。その後、ICS オリジナルの紙芝居「WHITE CROWS」、「さるかに合戦」、「THE DONKEY AND WOLF」をポルトガル語、スペイン語、日本語、英語で披露した。また、最後に生徒たち全員で各紙芝居を親の前で発表した。
②	9月8日 10:00~12:00 13:00~16:00 法人内	6時間	7人	ポルトガル語・日本語・英語・スペイン語	4人	最初に教員、生徒それぞれ母国語、日本語で自己紹介をした。その後、ICS オリジナルの紙芝居「WHITE CROWS」、「さるかに合戦」、「THE DONKEY AND WOLF」をポルトガル語、スペイン語、日本語、英語で披露した。また、最後に生徒たち全員で各紙芝居を親の前で発表した。
③	9月8日 10:00~12:00 13:00~16:00 法人内	6時間	7人	ポルトガル語・日本語・英語・スペイン語	4人	最初に教員、生徒それぞれ母国語、日本語で自己紹介をした。その後、ICS オリジナルの紙芝居「WHITE CROWS」、「さるかに合戦」、「THE DONKEY AND WOLF」をポルトガル語、スペイン語、日本語、英語で披露した。また、最後に生徒たち全員で各紙芝居を親の前で発表した。
④	10月3日 15:00~16:00 広瀬小学校	1,5時間	7人	ポルトガル語・日本語・スペイン語	教員3人 補助者1人	最初に教員、生徒それぞれ母国語で自己紹介をした。その後、ICS オリジナルの紙芝居「WHITE CROWS」をポルトガル語、スペイン語、日本語で披露した。

⑤	10月3日 15:00~16:00 坂東小学校	1,5時間	4人	ポルトガル語・日本語・スペイン語	教員3人 補助者1人	自己紹介を各言語で発表した。また、自分の得意言語を生徒たちに聞いて、それぞれの表現の表し方をアピールしてもらった。ドリムクラブの説明と紙芝居。紙芝居を各言語で説明。
⑥	10月4日 15:00~16:00 南小学校	1,5時間	11人	ポルトガル語・日本語・スペイン語	教員3人 補助者1人	自己紹介を日本語で発表した。また、自分の得意言語を生徒たちに聞いて、それぞれの表現の表し方をアピールしてもらった。ドリムクラブの説明と紙芝居。紙芝居を各言語で説明。
⑦	10月10日 15:00~16:00 広瀬小学校	1,5時間	7人	ポルトガル語・日本語・スペイン語	教員3人 補助者1人	紙芝居に出てきた単語の日本語、ポルトガル語を確認して、覚える学習をした。
⑧	10月17日 15:00~16:00 広瀬小学校	1,5時間	6人	ポルトガル語・日本語・スペイン語	教員3人 補助者1人	紙芝居の登場人物の絵を生徒たちに選んでもらい、ともに紙芝居を行った。その後、ビンゴの形式で、登場人物の絵をそれぞれの言語で呼び、手元の絵と照らし合わせるゲームを行った。
⑨	10月17日 15:00~16:00 坂東小学校	1,5時間	4人	ポルトガル語・日本語・スペイン語	教員3人 補助者1人	前回実施した紙芝居の復習。紙芝居に出てくるキーワードとなる単語を各言語で把握し、母国語及び日本語能力を上昇させる。使用教材：紙芝居、ビンゴゲーム
⑩	10月23日 15:00~16:00 豊受小学校	1,5時間	8人	ポルトガル語・日本語・スペイン語	教員3人 補助者1人	最初に教員の自己紹介をして、その後生徒全員にも日本語と母国語で自己紹介をしてもらった。紙芝居「WHITE CROWS」を日本語、ポルトガル語で披露した。
⑪	10月24日	1,5時間	7人	ポルトガ	教員3人	日本の紙芝居「さるかに合戦」

	15:00~16:00 広瀬小学校			ル語・日 本語・ス 페인語	補助者 1 人	をポルトガル語、日本語、ス 페인語で披露した。
⑫	10月30日 15:00~16:00 豊受小学校	1,5時間	8人	ポルトガ ル語・日 本語・ス 페인語	教員 3 人 補助者 1 人	前回の「WHITE CROWS」の登場 人物を生徒たちに選んでもら い、共に紙芝居を行った。
⑬	10月31日 15:00~16:00 坂東小学校	1,5時間	4人	ポルトガ ル語・日 本語・ス 페인語	教員 3 人 補助者 1 人	紙芝居の復習。今度は話に出て くる登場人物を絵に書く。更に 各登場人物の特徴を各言語で練 習する。
⑭	10月31日 15:00~16:00 広瀬小学校	1,5時間	8人	ポルトガ ル語・日 本語・ス 페인語	教員 2 人 補助者 1 人	前回の「さるかに合戦」の登場 人物を各言語で解説した。その 後、登場人物を使ったビンゴを 行った。
⑮	11月6日 15:00~16:00 豊受小学校	1,5時間	8人	ポルトガ ル語・日 本語・ス 페인語	教員 3 人 補助者 1 人	日本の紙芝居「さるかに合戦」 を各言語で披露した。
⑯	11月7日 15:00~16:00 広瀬小学校	1,5時間	7人	ポルトガ ル語・日 本語・ス 페인語	教員 3 人 補助者 1 人	メキシコの文化や遊びを紹介し た。国の観光名所や通貨、物価、 交通手段、食べ物などを紹介し た。
⑰	11月7日 15:00~16:00 坂東小学校	1,5時間	4人	ポルトガ ル語・日 本語・ス 페인語	教員 3 人 補助者 1 人	ブラジルの観光、文化、食文化、 紙幣などを各言語で紹介。 単語を学ぶために、クイズゲー ムを実施。
⑱	11月14日 15:00~16:00 広瀬小学校	1,5時間	7人	ポルトガ ル語・日 本語・ス 페인語	教員 3 人 補助者 1 人	ペルーの文化を紹介した。モノ の値段は前回と同じモノで比較 した。お金の種類や交通手段、 食べ物などを紹介した。
⑲	11月15日 15:00~16:00 南小学校	1,5時間	8人	ポルトガ ル語・日 本語・ス 페인語	教員 3 人 補助者 1 人	メキシコの文化や遊びを紹介し た。国の観光名所や通貨、物価、 交通手段、食べ物などを紹介し た。

⑳	12月3日 15:00~16:00 豊受小学校	1,5時間	8人	ポルトガル語・日本語・スペイン語	教員3人 補助者1人	メキシコの文化や遊びを紹介した。国の観光名所や通貨、物価、交通手段、食べ物などを紹介した。
㉑	12月5日 15:00~16:00 広瀬小学校	1,5時間	7人	ポルトガル語・日本語・スペイン語	教員3人 補助者1人	メキシコの文化や遊びを紹介した。国の観光名所や通貨、物価、交通手段、食べ物などを紹介した。
㉒	12月5日 15:00~16:00 坂東小学校	1,5時間	4人	ポルトガル語・日本語・スペイン語	教員3人 補助者1人	メキシコの文化や遊びを紹介した。国の観光名所や通貨、物価、交通手段、食べ物などを紹介した。
㉓	12月12日 15:00~16:00 広瀬小学校	1,5時間	7人	ポルトガル語・日本語・スペイン語	教員3人 補助者1人	ペルーの歴史を各言語で紹介。絵、ゲームなどを通して単語を練習した。
㉔	12月12日 15:00~16:00 坂東小学校	1,5時間	4人	ポルトガル語・日本語・スペイン語	教員3人 補助者1人	ボリビアの観光、文化、食文化、紙幣などを各言語で紹介。単語を学ぶために、クイズゲームを実施。
㉕	12月13日 15:00~16:00 南小学校	1,5時間	8人	ポルトガル語・日本語・スペイン語	教員3人 補助者1人	ブラジルの歴史を各言語で紹介。絵、ゲームなどを通して単語を練習した。
㉖	12月19日 15:00~16:00 広瀬小学校	1,5時間	7人	ポルトガル語・日本語・スペイン語	教員3人 補助者1人	ペルーの文化や遊びを各言語で紹介した。国の場所や通貨、物価、交通手段、食べ物などを紹介した。キーワードとなる単語を学び、発表してもらった。
㉗	12月20日 15:00~16:00 南小学校	1,5時間	8人	ポルトガル語・日本語・スペイン語	教員3人 補助者1人	ペルーの歴史を各言語で紹介。絵、ゲームなどを通して単語を練習した。最後は発表してもらった。
㉘	1月9日 15:00~16:00	1,5時間	4人	ポルトガル語・日	教員3人 補助者1人	ペルーの歴史を各言語で紹介 (REAL FELIPE)。ほかの国の歴

	坂東小学校			本語・スペイン語		史を通して単語力、表現力を向上させる。福笑いを通して単語力を向上させた。
②⑨	1月9日 15:00~16:00 広瀬小学校	1,5時間	7人	ポルトガル語・日本語・スペイン語	教員3人 補助者1人	ブラジルの童話「カメと完璧主義者」を各言語で紹介。童話に登場人物を各生徒が選び、それを演じて貰った。 ゲームを通じて単語を学んだ。
③⑩	1月16日 15:00~16:00 広瀬小学校	1,5時間	7人	ポルトガル語・日本語・スペイン語	教員3人 補助者1人	ペルーの歴史「スペイン人の占拠について」を各言語で紹介。単語ビンゴを通じて単語力を向上させた。
③⑪	1月17日 15:00~16:00 南小学校	1,5時間	8人	ポルトガル語・日本語・スペイン語	教員3人 補助者1人	ブラジルの童話「カメと完璧主義者」を各言語で紹介。童話に登場人物を各生徒が選び、それを演じて貰った。 ゲームを通じて単語を学んだ。
③⑫	1月23日 15:00~16:00 広瀬小学校	1,5時間	7人	ポルトガル語・日本語・スペイン語	教員3人 補助者1人	ブラジルの童話「クジャクの足」を各言語で紹介。童話に登場人物を各生徒が選び、それを演じて貰った。 ゲームを通じて単語を学んだ。
③⑬	1月30日 15:00~16:00 坂東小学校	1,5時間	4人	ポルトガル語・日本語・スペイン語	教員3人 補助者1人	日本のブラジル移民の歴史を各言語で紹介。話に出てくるキーワードとなる単語を日本語で表現できるように練習する。カードや絵を使って、生徒たちが発表できるように練習する。
③⑭	1月30日 15:00~16:00 広瀬小学校	1,5時間	7人	ポルトガル語・日本語・スペイン語	教員3人 補助者1人	日本のブラジル移民の歴史を各言語で紹介。話に出てくるキーワードとなる単語を日本語で表現できるように練習する。カードや絵を使って、生徒たちが発表できるように練習する。

③⑤	2月5日 15:00~16:00 豊受小学校	1,5時間	9人	ポルトガル語・日本語・スペイン語	教員3人 補助者1人	日本での日常生活でよく使う単語、カードなどを使用。また、日常生活によく起こる事例を通じて単語力を向上させた。最終日だったのでお別れの言葉を交わした。クラフトで作ったメダルを生徒たちにプレゼントした。
③⑥	2月6日 15:00~16:00 広瀬小学校	1,5時間	7人	ポルトガル語・日本語・スペイン語	教員3人 補助者1人	ペルーの童話を各言語で紹介した。また、ペルー伝統ダンスの歴史や、文化を写真や画像を使用して紹介した。
③⑦	2月7日 15:00~16:00 南小学校	1,5時間	8人	ポルトガル語・日本語・スペイン語	教員3人 補助者1人	ペルーの童話を各言語で紹介した。また、ペルー伝統ダンスの歴史や、文化を写真や画像を使用して紹介した。ペルーの民族衣装を学ぶため、クラフトを実施した。
③⑧	2月13日 15:00~16:00 広瀬小学校	1,5時間	5人	ポルトガル語・日本語・スペイン語	教員3人 補助者1人	前回行ったペルー童話の続きを各言語で紹介した。ペルーの民族衣装を学ぶため、クラフトを実施した。
③⑨	2月20日 15:00~16:00 広瀬小学校	1,5時間	7人	ポルトガル語・日本語・スペイン語	教員3人 補助者1人	ビデオを通じてペルーの伝統ダンスを紹介した。前回のクラフトの続きを行った。
④⑩	2月21日 15:00~16:00 南小学校	1,5時間	8人	ポルトガル語・日本語・スペイン語	教員3人 補助者1人	ビデオを通じてペルーの伝統ダンスを紹介した。前回のクラフトの続きを行った。
④⑪	2月27日 15:00~16:00 坂東小学校	1,5時間	4人	ポルトガル語・日本語・スペイン語	教員3人 補助者1人	前回の授業の復習及び発表。移民の歴史を通して表現力、日本語能力をアップさせる。単語を理解し、文章化する。絵を基に理解したものを表現する。

						お別れ会。生徒全員に紙で作ったメダルを配布。日本語で感謝の言葉を表す。
④②	3月6日 15:00~16:00 広瀬小学校	1,5時間	7人	ポルトガル語・日本語・スペイン語	教員3人 補助者1人	ブラジルの童話を各言語で紹介した。また、ブラジル伝統ダンスの歴史や、文化を写真や画像を使用して紹介した。 民族衣装のクラフトを行った。最終日だったので各言語でお別れの言葉を交わした。クラフトで作ったものを生徒たちにプレゼントした。
④③	3月7日 15:00~16:00 南小学校	1,5時間	8人	ポルトガル語・日本語・スペイン語	教員3人 補助者1人	ブラジルの童話を各言語で紹介した。また、ブラジル伝統ダンスの歴史や、文化を写真や画像を使用して紹介した。 民族衣装のクラフトを行った。最終日だったので各言語でお別れの言葉を交わした。クラフトで作ったものを生徒たちにプレゼントした。



② 特徴的な授業風景（2～3回分）

LESSON PLAN 例と解説

LESSON PLAN 例 10月3日、10月17日、10月31日 テーマ 「WHITE CROWS」紙芝居

アクティビティ	目的	プラン, 教師への注意事項及び解説
1) アイスブレイキング	教員及び生徒同士でお互いを知り、より楽しく授業を進行させる。	教員を始め生徒たちに得意な言語で自己紹介をしてみよう。最後に全員日本語で自己紹介。教員に生徒の日本語能力を把握してもらおう。
2) 今日の授業の紹介 (テーマ・目的), 紙芝居を披露する。(WHITE CROWS)	生徒たちの聴解力を把握する。また、紙芝居の真の目的 (家族、親を大切にする) を伝える。	最初に日本語で紙芝居を披露。それに続き、ポルトガル語、スペイン語で紹介する。各言語の単語習得能力を始め、テーマに対する意欲を把握する。ただし、紙芝居は読んで紹介するだけでなく、演技を導入させながら大きく表現力を発揮し、生徒たちを話に引き寄せようとする。
3) 紙芝居の各シーンに沿ってキーワードとなる単語、内容を日本語で紹介する。その後、各言語でそれを紹介する。	生徒全員が紙芝居の話の内容を通して、単語力を向上させる。また、自分の母国語を通してさらに理解を深める。	教員が最初から紙芝居のシーンを一枚ずつ紹介し、今度は生徒たちに問題を出しながら内容を把握してもらおう。また、難しい単語を覚えるために、ヒントを出しながら生徒に答えさせる。正解すれば、ご褒美のシールを1枚提供する。こういったゲームやクイズを通じて生徒をより楽しく単語習得力や、読解能力を向上させる。
4) 発表の練習	紙芝居のストーリーを理解し、それを各言語で表現する。	ストーリーに出てくるキーワードとなる単語やシーンをすべて理解し、ストーリーを自分で説明できるまで覚えさせる。使用する教材はカードや、ビンゴを通じて単語などを覚えさせる。また、クラフトなどを活用し、生徒たちが授業に対して集中力を途切れないうようにさせる。また、自分が好きな登場人物を選んでもらい、次回の授業の時にストーリーを披露させてもらう。
5) 発表	行ったアクティビティを皆の前で共有し学習したことを確認する (日本語で人に伝える練習)。	前回生徒たちに選んでもらったストーリーの登場人物になりきって演劇を披露してもらう。クラフトで作成した登場人物のお面や衣装を着て、日本語でストーリーを発表してもらう。最後にご褒美のスペシャルシールを提供。

(10) 目標の達成状況・成果

最初は、学ぶことに対して「戸惑い」を生徒たちに感じられた。自分たちが学んだことをどのように表現すればよいのか分からなかった。

紙芝居や、学習内容を通して「楽しく学ぶ」ということを実感した生徒たちは、勉強に対する意欲を向上できた。そして、「学ぶ」だけではなく「教える」などでより効果的に理解を深めることが出来た。「教える」では、自分たちが受けた授業の内容を改めて自分たちの力で発表するので、学習内容に対する「自信」を身に付け、覚えることの「戸惑い」を克服することが出来た。

(11) 改善点について

特に紙芝居を使った授業は、合計4回を通して実施しなくてはならない教材なので、生徒たちが飽きないように工夫を改善する必要がある。なお、授業駒数が決められているため、焦らないように「予定」を重視するのではなく、「学ぶ場」として考えてゆけば指導者も授業を提供しやすくなる。

6. 日本語教育を行う人材の養成・研修の実施

(1) 講座名称: DREAM CLUB (DC) 日本語教育人材育成プログラム

(2) 目的・目標: 地域で日本語教育に携わっている教員や団体を対象に外国人児童のニーズに基づいて日本語を教えること。また、国籍別の対応、指導の在り方などの意見交換会を実施し、効率的に授業を提供できるようにする。

(3) 対象者: 地域にて、日本語指導及び日本語指導現場で活躍している人

(4) 開催時間数: (回数) 6 時間 (全 2 回)

(5) 使用した教材・リソース: ICS オリジナルの紙芝居、各参加者の経験による意見交換

(6) 受講者の総数: 4 人

(出身・国籍別内訳 日本: 3人、ブラジル1人)

(7) 受講者の募集方法: 電話で連絡

(8) 養成・研修の具体的内容:

一度の授業でどのように効率的に紙芝居を使った教材で多国籍の児童生徒に対して教えられるのか。日本語指導教育現場における経験者たちによる意見交換会を実施。また、国籍別の日本語習得率の分析を基に、その生徒に合った日本語指導について日本語指導教育現場における経験者たちによる意見交換会を実施。

(10) 目標の達成状況・成果:

日本語指導教育現場で活躍している指導者による意見交換会を実施したことで、各自の経験を基にいろいろな事例を知ることが出来た。また、今後の日本語教育としての課題の視野を広げることが出来た。

(11) 改善点について:

実際に講演会を担当する講師が都合により参加できなかったため、講義プランを改めて作成しないといけなかった。時間も迫っていたので、募集も口頭で伝えないといけなかった。

7. 日本語教育のための学習教材の作成

(1) 教材名称: 「WHITE CROWS」、「さるかに合戦」、「THE DONKEY AND WOLF」(紙芝居)

(2) 対象: 日本語以外の言語を第1言語として活用している児童。

(3) 目的・目標:

ストーリーを基に、読む、書く、聞く、話す、の学習アクティビティを通して日本語を学ぶ環境を提供する。また、社会的な反映を持つストーリーを紹介することで、社会自立の手助けにもなる。

(4) 構成: 日本語教室の具体的内容の②を参照。

(5) 使い方: 日本語教室の具体的内容の②を参照。

(6) 具体的な活用例: 日本語教室の具体的内容の②を参照。

紙芝居 (WHITE CROWS) の内容 (日本語訳)

第1シーン

昔昔、川のそばの巣に、真っ白い鳥の夫婦がいました。お母さんガラスが五つの卵を産んで、夫婦が生まれるのを楽しみに待っていました。

第2シーン

しかし、ある日、台風が来て、卵が全部川に流されてしまいました。親ガラスはとてもかなしかったので、死んでしまい、天国に行きました。

第3シーン

流された卵はバラバラになって、ペルーの泡鳥、中国の竜、日本の亀、ベトナムの牛、ブラジルの猿にそれぞれ暖められました。

第4シーン

とうとう卵がそれぞれ孵りましたが、鳥ではなく、人間の男の子が五人生まれました。動物の親がびっくりしましたが、自分の子供として育てました。子供はそれぞれ自分のことをペルー、中国、日本、ベトナム、ブラジル人だと思いました。もう、自分が白いカラスの子供だと知らなかった。

第5シーン

ある日、大きくなった五人の男の子の兄弟がばったり出会いました。五人とも顔がそっくりだったので、兄弟だと分かりました、そして動物の親が本当の親じゃないことを知りました。そして、本当の親を探すとみんなで決めました。

第6シーン

五人の男の子が krathong を作って、川に流して、本当の親が krathong を見て、子供を思い出してくれるようにと祈りました。

第7シーン

天国にいる親が地球に降りて、子供に姿を見せてくれました。

第8シーン

五人の男の子はカラスの親を見て、すぐに自分の本当の親だと分かり、鳥語でママ、パパと叫びました。

第9シーン

鳥の親が泣きながら、子供を抱きました。離れても、ずっと親だよと言いました。「お前たちは人間の前に、まずカラスだと、忘れないでね。白いカラスが少なく、寂しいかもしれないけど、特別な存在だよ」と励ましてくれました。

第10シーン

それから毎年11月に、五人の鳥の子供が krathong を作って、本当の親と再会することになったのでした。

紙芝居の解説

・両親に対し、忠誠心と感謝の気持ちを持つことの大切さを学び、同時に紙芝居のストーリーを通じて、単語力、聴解力を向上させる。さらに、両親が我が子を愛する大切さを改めて実感させる。また、自分を見出す人生の旅、自分の生まれ持つ本質を理解し、それを名誉に思うことの大切さを学ぶ。

・ストーリーを基に、読む、書く、聞く、話す、の学習アクティビティを通して日本語

を学ぶ環境を提供する。また、社会的な反映を持つストーリーを紹介することで、社会自立の手助けにもなる。

8. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

- ・子どもが自分たちの深く知っている話題について、日本語を自由に話し使うことのできる環境を提供する。
- ・日本人のクラスメートの中で少数派である子ども達の文化などを知る機会を提供する。
- ・親達の文化や言語に対する自尊心と誇りを育てる。
- ・親としての影響力や親子のつながりを深めることで、子どもの学校生活での問題の解決を親が助けることができるようにする。

(2) 目標の達成状況・事業の成果

最初は、学ぶことに対して「戸惑い」を生徒たちに感じられた。自分たちが学んだことをどのように表現すればよいのか分からなかった。

紙芝居や、学習内容を通して「楽しく学ぶ」ということを実感した生徒たちは、勉強に対する意欲を向上できた。そして、「学ぶ」だけではなく「教える」などでより効果的に理解を深めることが出来た。「教える」では、自分たちが受けた授業の内容を改めて自分たちの力で発表するので、学習内容に対する「自信」を身に着け、覚えることの「戸惑い」を克服することが出来た。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

常に日本語指導を行っている団体、あるいは指導者を中心にDCで作成した教材の使用法を伝授し、地域で日本語の習得の問題を抱えている外国人児童に対して利用する。

(4) 地域の関係者との連携による効果, 成果等

特に学校の教員との連携が深まった。そして、生徒たちの教室での成長について情報を共有して実際の公立学校で行っている授業などで担任が効率的に対応できるようになった。また、親達に対して生徒の学習状況について母国語で説明できたため、より学校と連携する大切さを見せることが出来た。

(5) 改善点, 今後の課題について

ドリムクラブで行った活動について、特にアイデンティティを尊重する面では保護者を対象にしたオリエンテーションは欠かせないと考えています。進路の明確さ、将来暮らす場所、アイデンティティの確立など様々な視点で成果を示しています。このよう

な活動を今後も地域や、自治体機関等と連携して実施すればこういった課題を少しずつ乗り越えられると考えています。なお、日本語教育におけるネットワーク等の構成、指導法のノウハウ等の情報を共有することが今後の課題になると思われます。

日本語におけるコミュニケーション能力について、生徒たちの日本語の使用実態，学習者の日本語力の向上に伴う日本語使用状況の変化等をもとにとらえなおし，その枠組みと構成要素の明確化を目指すことが大事です。その上で，学習項目の一覧と段階別基準を開発し，これらを，日本語教育機関が日本語学習内容の選定やカリキュラムの作成をしたり，日本語教育関係者が教材や試験の開発を行ったりする上で参考にできる資料として提供しなければならないと考えています。